

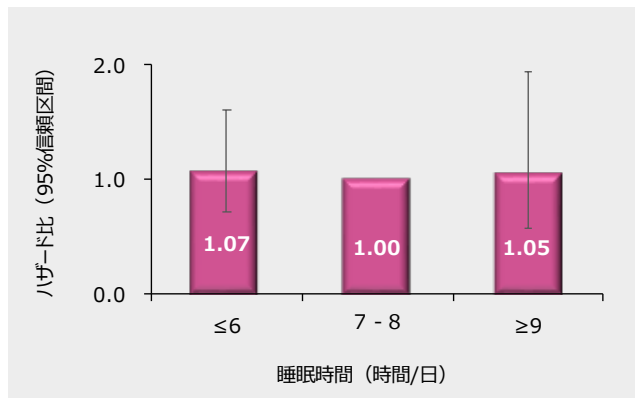
# 睡眠時間と子宮内膜がん罹患リスクとの関連： 宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究のプーリング解析

Sleep duration and the risk of endometrial cancer incidence among Japanese women: A pooled analysis of the Miyagi Cohort Study and the Ohsaki Cohort Study

2023年 Cancer Epidemiology 発表

## 睡眠時間と子宮内膜がん罹患に関連なし

近年、子宮内膜がんの罹患率は世界的に増加しています。子宮内膜がんの主なリスク要因としては、女性ホルモンに関連する要因（初潮年齢、閉経年齢、未経産、ホルモン補充療法等）が示唆されています。一方、先行研究では、生活習慣（喫煙、不健康な食習慣、低身体活動量、肥満）と子宮内膜がんとの関連も報告されています。しかし、睡眠時間と子宮内膜がん罹患との関連は明らかではありません。そこで本研究は、大規模な前向きコホート研究である宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究のデータを統合して、睡眠時間が子宮内膜がん罹患リスクに影響するかどうかを検証しました。その結果、睡眠時間は、子宮内膜がん罹患リスクとは関連しないことを明らかにしました（図）。



睡眠時間と子宮内膜がん罹患リスクとの関連

## 研究のデータについて

本研究は、宮城県内の2つの研究データを用いて分析を行いました。1つ目は宮城県コホート研究で、1990年6-8月に宮城県内14町村在住の40-64歳の女性26,642名に対して自己記入式アンケートを配布し、そのうち24,769名から有効回答を得ました（回答率92.9%）。2つ目は大崎国保コホート研究で、1994年10-12月に宮城県大崎保健所管轄14市町居住の40-79歳の国民健康保険加入者の女性28,515名に対して自己記入式アンケートを配布し、そのうち27,133名から有効回答を得ました（回答率：95.2%）。本研究ではこのうち、追跡開始日以前に異動した者、両コホートに重複して参加していた者の大崎国保コホートのデータを除外し、さらに、ベースライン調査時点でがん既往歴があった者、睡眠時間の質問に未回答であった者を除いた36,537名について分析を行いました。追跡期間は、宮城県コホート研究で24.5年間、大崎国保コホート研究で19.5年間であり、この間に計146件の子宮内膜がん罹患を確認しました。

## 睡眠時間について

自記式調査票の回答に基づいて、睡眠時間を6時間以下、7-8時間、9歳以上の3群に分類しました。本研究では「6時間以下」群を基準として他の群の子宮内膜がん罹患リスクを比較しました。

## 他のリスク要因の影響について

この研究では、睡眠時間と子宮内膜がん罹患に関連すると考えられている要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、年齢、BMI、家族のがん罹患歴、学歴、喫煙、飲酒、歩行時間、初潮年齢、出産数、経口避妊薬の有無、ホルモン補充療法の有無についてグループ間に偏りが無いように統計学的な処理を行っています。

## 研究の特徴と限界について

本研究の特徴としては、①日本人女性を対象とした大規模調査の結果であり、追跡期間が長いこと、②質問票の回答率が高いため選択バイアスが小さいこと、③外因性ホルモンによる影響が少ないことなどが上げられます。一方、研究の限界としては、①睡眠時間についての回答は自己回答であること、②症例数が少なく、統計的パワーは十分ではない可能性があること、③睡眠時間に影響する昼寝については調査されていないことがあげられます。